



持続可能社会の実現をめざして

千住金属工業グループは、「環境ビジョン2050」として持続可能社会の実現を掲げています。その実現に向けて、国際的な要求に基づく中期目標として、2025年に「第三次環境プラン」を策定しました。環境ビジョン2050の実現に向けた、SMICグループのこれまでの取り組みと今後の方向性をご紹介します。

環境ビジョン2050

低炭素社会の実現

温室効果ガスゼロ社会への挑戦

循環型社会の実現

資源循環による地球資源の保護

自然共生社会の実現

環境リスクの最小化と生物多様性の保全

第三次環境プラン

(2020年度～2035年度)

カーボンニュートラルに向けた取り組み

2020年度のスコープ1・スコープ2 グローバル温室効果ガス排出量(24,120t-CO₂)の63%を2035年までに4.2%/年で削減^{※1}

※1 低炭素電力^(注) および新規エネルギー技術の活用を想定

使用化学物質管理の徹底

使用化学物質による地球環境・生態系への影響を最小化

リサイクル資源活用の推進

リサイクル材料^{※2} 使用率50%以上を堅持しさらなる向上を目指す

※2 リユース材、プレコンシューマリサイクル材を含む

生物多様性の保全

環境保護活動による生物多様性の保全

(注) 低炭素電力: ライフサイクル全体でGHG排出量が大幅に少ない電力(原子力発電を含む)

SMICグループのGHG削減への取り組み — 国内拠点のGHG排出量削減

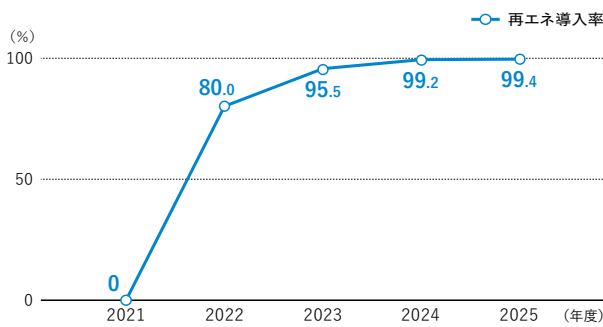
SMICグループでは、地球温暖化が世界的に主要課題の一つとなった2010年代から設備改善や省エネルギー活動を通じて、エネルギー使用量削減および環境負荷低減に継続して取り組んできました(第一次環境プラン)。パリ協定に正式移行した2020年には、環境ビジョン2050と、その実現のための中期目標として第二次環境プランを策定。カーボンニュートラルに向けては、2020年から2030年までの取り組み期間

において、2013年の国内スコープ1 およびスコープ2 排出量の25%相当量を削減するという目標を設定し、国内拠点を対象として生産設備やインフラ設備の高効率化や照明のLED化など、省エネ施策を推進しました。

2022年からは省エネ施策だけでなく、再生可能エネルギー電力の導入を開始。2023年には本社および国内全製造拠点で導入を完了し、GHG排出量削減を前進させました。

省エネ取り組みの事例	CO ₂ 削減効果
電力モニタ設置による電力見える化	—
コンプレッサ稼働適正化	85%削減
エネルギー負荷の高い工程の効率化(溶解・鑄造・成形など)	28%削減
自家発電用燃料の切り替え(重油→都市ガス)	37%削減
地下水揚程深さ変更	25%削減
照明機器のLED化	50%削減

国内拠点 購入電力の再エネ導入状況



低炭素社会実現に向けた第三次環境プラン

第三次環境プランでは、環境ビジョン2050の実現に向け、1.5℃目標に整合した国際的な削減の考え方を取り入れています。また、これまでの国内中心の総削減量目標から、年間4.2%削減に整合したグローバルベースの削減計画へ発展させました。

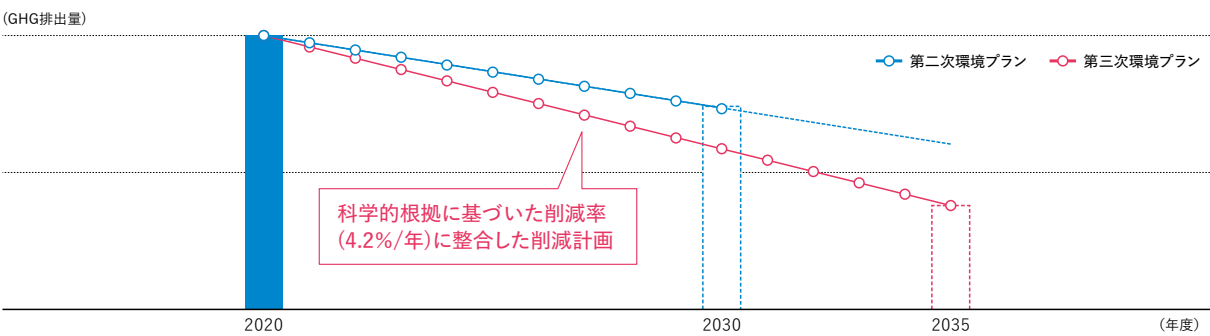
● 基準排出量のグローバル化

グループ全体での排出量管理と削減推進を強化。

● 国際的な要求に沿った削減計画への転換

科学的根拠に基づく年次目標を設定し、継続的な排出量削減を推進。

スコープ2 排出量削減に向けては、自然由来の再生可能エネルギー電力を中心にその他の低炭素電力も活用し、各国・各地域の状況に応じた最適な手法を柔軟に採用することで、安定的にカーボンフリー電力を確保し、確実な排出量削減を進めていきます。併せて、エネルギー生産・調達による生物多様性や地域環境への影響にも配慮していきます。また、スコープ1 排出量の削減に向けては、着実な省エネルギー活動を継続するとともに、新規エネルギー技術の導入も視野に入れています。カーボンフリーガスや次世代熱源・燃料などについても、社会実装の動向を注視しながら、実用化の進展に応じた検討を進めていきます。



SMICグループは、脱炭素への取り組みを進化させ、カーボンニュートラルの実現に向けた歩みを加速していきます。